

## 安全と安心

「安全」—物理的な危険のないこと。

「安心」—危険のおそれを心理的、主観的に感じる、いわば主観的安全、その安心感がない状態を「不安」という。

「安全」は、刑法犯認知件数等の数値で表しやすいことから、「指数治安」、  
「安心」・「不安感」は、体感温度類似の言葉で「体感治安」と言われることがある。

国民の体感治安(不安感)が改善しないのはなぜか。

1. ストーカー、DV、児童虐待等、いわゆる犯罪統計には現れない「被害」の増加
2. 特殊詐欺、サイバー犯罪等の犯罪の増加
3. 犯罪報道の影響etc.

## 「安全と安心の乖離」

・2003年以降の刑法犯認知件数の減少

・しかしながら、2021年12月から翌年1月までに内閣府が実施した「治安に関する世論調査」では、この10年で日本の治安が悪くなったと思う人が54.5%

体感治安の改善、不安から安心の回復に至っていないとの結論が出ていない。

## 安全と安心の乖離の状態への対応 安全安心の一体的取組

- ・「安全を求め、後に安心を求めろ」という思考方法をする中で、安心のための施策が何かを明確にすることは難しい。
- ・そこで、刑法犯認知件数を安全の指標として改善を図るだけでは足りず、地域住民の意識にも目を向け、安全安心を一体的、総合的に捉え、それを裏付ける施策が何かを明らかにし、そうした各種施策を推進することが必要となってくる。
- ・この発想を象徴的に表す観点から、「安全・安心」ではなく、「安全」「安心」を一体的にした「安全安心」という語を用いて、各種施策を推進(2015年東京都安全安心まちづくり条例改正、同年12月犯罪対策閣僚会議)

